

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 10
2017. 2

TOPICS

1

ベトナムで男児に生体肺移植 岡山大学病院が移植チーム 無事終了

岡山大学病院臓器移植医療センターの大藤剛宏教授をチーフとする肺移植チームは2月21日、ベトナムの首都ハノイにある軍医大学病院で嚢胞(のうほう)性肺線維症の6歳男児への生体肺移植手術を行い、無事終了しました。2011年にスリランカで初の肺移植を行っており、海外での移植手術は2例目です。

臓器移植医療センターの大藤教授らによる手術は同日午前10時(日本時間正午)すぎに始まり、約6時間半後に終了しました。男児に人工心肺を取り付けて両肺を取り除き、並行してドナーの父とおじからそれぞれ片方の肺の下部を摘出し、男児へ移植。容体は安定しており、順調なら約2カ月で退院できる見通しです。

大藤教授は「患者とドナー2人の手術で準備から大変だったが、無事に終わってほっとしている。新たにベトナムに肺移植という大きな医療技術が流れ込んだので、今後いろんな分野で医療が進んでくれればいいと思う」と話しています。大藤教授ら一部のスタッフは術後の経過を見るため、現地に約2週間滞在します。

肺移植チーム計29人が渡航。医療器具なども日本から持ち込み、「岡山大学クオリティ」で手術を行いました。岡山大学病院の肺移植は国内最多の164例(2017年2月現在)を実施しており、世界トップクラスの成功率を誇っています。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6475.html

岡山県鏡野町と 寄付研究部門の設置に関する協定を締結

TOPICS

2



本学は2月1日、岡山県鏡野町と寄付研究部門の設置に関する協定を締結しました。本学が4月に開設する「岡山大学中性子医療研究センター」において、鏡野町からの寄付による寄付研究部門として「国際連携部門」を設置します。同センターでは、最新のがん治療法であるホウ素中性子捕捉療法(BNCT)の研究や教育に取り組み、革新的で全世界に輸出可能ながん治療法の確立を目指します。

調印式には、森田潔学長、山本進一理事・副学長(研究担当)、鏡野町の山崎親男町長、小椋晶志町議会議長らが出席。森田学長と山崎町長が協定書にサインし、握手を交わしました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6452.html

最近の大学の取り組み

「岡山大学における納品・検収に関する説明会」を開催

本学は2月14日、取引業者を対象とした「岡山大学における納品・検収に関する説明会」を開催しました。

説明会では、須藤晴夫契約課長があいさつ。文部科学省から「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」が示されており、昨年は、本ガイドラインの改正に基づいて「特殊な役務の検収基準」を新たに制定した旨を説明しました。また、契約課の阿部秀樹総括主査が資料に沿って詳細な説明を行いました。

取引先業者の約60社の64人が出席し、大学の納品・検収に関するルールについて、理解を深めました。

本説明会は、本学の公的研究費等の不正使用防止に関する行動計画に基づき、大学における検収方法等の理解を深めてもらうことが目的で、2年に1度開催しています。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6483.html

TOPICS

3

米・グアム大学のアンダーウッド学長が来学



米国グアム準州・グアム大学のロバート・アナクルタス・アンダーウッド(Robert Anacletus Underwood)学長が2月13日、本学を訪れ、森田潔学長を表敬訪問しました。訪問では、両大学との連携・協力について意見交換。森田学長が「研究交流・学生交流活動が大きく展開されることを期待している」と話しました。

表敬訪問の後、理学部の吉野雄二学部長、高橋純夫教授が理学部附属牛窓臨海実験所や関連研究施設等を紹介しました。また、環境理工学部の藤原健史教授が廃棄物マネジメント研究センターの取り組みと、グアム大学との長年の交流状況を説明し、今後の交流に関する意見交換を行いました。

アンダーウッド学長は、外務省が行う「戦略的実務者招へいプログラム」で米国の有識者として2月8日から2月15日まで日本に滞在しました。



参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6505.html

水泳部中尾さんが「第56回岡山スポーツ賞」個人賞を受賞

TOPICS

4

本学水泳部の中尾駿一さん(マッチングプログラムコース3年)が「第56回岡山スポーツ賞」個人賞を受賞し、2月21日、岡山市内で開かれた授賞式に出席しました。同賞は、岡山スポーツ記者クラブ(山陽新聞社など16社加盟)が、この1年間に国内外の大会で優秀な成績を収めた岡山県ゆかりの選手やチームなどをたたえるものです。

中尾さんは日本学生選手権男子50m自由形の初制覇、アジア選手権で50m背泳ぎ、自由形ともに表彰台に立ったことなどが評価されました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6463.html



RESEARCH HIGHLIGHTS 1

光合成における水分解反応の機構の核心に迫る成果
光化学系Ⅱ複合体が酸素分子を発生する直前の立体構造を解明

岡山大学異分野基礎科学研究所の菅倫寛助教、秋田総理助教、沈建仁教授、理化学研究所放射光科学総合研究センターの菅原道泰特別研究員、久保稔専任研究員、京都大学大学院医学研究科の岩田想教授(同センターグループディレクター)らの共同研究グループは、X線自由電子レーザー(XFEL)施設SACLAを用いて、光化学系Ⅱ複合体が光合成の水分解反応において酸素分子を発生させる直前の状態の立体構造を捉えることに成功し、酸素分子の生成部位を特定しました。

本研究成果は、日本時間2月21日(火)(英国時間:20日午後4時)、英国の科学雑誌「Nature」に掲載されました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id448.html



RESEARCH HIGHLIGHTS 2

遺伝子発現制御を高感度で検出する新手法を開発
～透明にした植物内部でそのまま観察することが可能に～

1つの個体は、同じゲノムDNAを持ちながらも、根や葉などのさまざまな異なる器官や組織へと分化します。それを可能にしているのが、DNAやヒストンに“目印”として化学的変化(エピジェネティック修飾)を引き起こし、必要な遺伝子のオン/オフの切り換え(遺伝子発現制御)を行う仕組みです。

岡山大学資源植物科学研究所の長岐清孝准教授、山地直樹准教授と村田稔教授は、植物組織を透明化するClearSee法を改良。エピジェネティック修飾を検出する抗体の浸透効率を向上させ、遺伝子発現制御を高感度で検出する「ePro-ClearSee法」を世界で初めて開発しました。本研究成果は2月8日(英国時間午前10時)、英国の科学雑誌「Scientific Reports」に掲載されました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id444.html

